

CASBEE® 新潟 | 評価結果 |



■使用評価マニュアル: CASBEE新潟マニュアルv.4.0、CASBEE-建築(新築)2016年版
 ■使用評価ソフト: CASBEE新潟v.4.0.2

1. 建物概要					
建物名称 建設地 用途地域 建物用途 竣工年 敷地面積 建築面積 延床面積 階数 構造 評価の段階 評価の実施日	(仮称)西区坂井複合福祉施設 新築工事 新潟県新潟市西区坂井字村上1449番1ほか6筆 用途地域指定なし、防火地域指定なし 病院,集合住宅, 2023年12月 竣工 3,702.26 m ² 1,037.24 m ² 2,631.70 m ² 地上3F S造 実施設計段階評価 2022年12月20日				
2. CASBEE新潟の評価結果					
		B+	$BEE = \frac{Q \text{ 建築物の環境品質}}{L \text{ 建築物の環境負荷低減性}} = \frac{42.9}{42.9} = 1.0$		
S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B-: ★★★★★ C: ★					
3. 新潟市の重点項目の評価					
1. 長寿命化の取組み 建築物を長く、安心・安全に使い続けるために	平均スコア 3.0		バリアフリー計画	Q2.1.1.3	3.0
			維持管理	Q2.1.3	3.0
			設備の更新性	Q2.3.3	3.0
2. 地震への取組み かけがえのない人命、財産を守るために	平均スコア 2.9		耐震・免震・制震・制振	Q2.2.1	3.0
			信頼性	Q2.2.4	2.8
3. 大雨への取組み 大雨に強いまちづくりのために	平均スコア 3.0		雨水排水負荷低減	LR3.2.3.1	3.0
4. 自然エネルギー利用の取組み 地球温暖化対策のために	平均スコア 3.7		建物外皮の熱負荷抑制	LR1.1	4.7
			自然エネルギー利用	LR1.2	2.7
5. 資源循環の取組み 持続可能な循環型社会づくりのために	平均スコア 3.0		節水	LR2.1.1	4.0
			躯体材料以外でのリサイクル材の使用	LR2.2.4	1.0
			部材の再利用可能性向上への取組み	LR2.2.6	4.0
6. 水と緑を活かす取組み 豊かな自然環境を次世代に引き継ぐために	平均スコア 2.0		生物環境の保全と創出	Q3.1	1.0
			敷地内温熱環境の向上	Q3.3.2	3.0
7. 新潟のまちなみへの取組み 地域の個性や魅力を活かしたまちづくりのために	平均スコア 2.5		まちなみ・景観への配慮	Q3.2	3.0
			地域性への配慮、快適性の向上	Q3.3.1	2.0
4. 新潟市の重点項目の配慮事項					
新潟市の重点項目に関する配慮事項を記載してください。					

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

CASBEE[®]新潟

評価結果

■ 使用評価マニュアル: CASBEE新潟マニュアルv.4.0、CASBEE-建築(新築) 2016年版 | 使用評価ソフト: CASBEE新潟v.4.0.2

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)西区坂井複合福祉施設 新築工事	階数	地上3F
建設地	新潟県新潟市西区坂井字村上1449番1ほか6筆	構造	S造
用途地域	用途地域指定なし、防火地域指定なし	平均居住人員	150 人
地域区分	5地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)
建物用途	病院集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2023年12月 竣工	評価の実施日	2022年12月20日
敷地面積	3,702 m ²	作成者	安田 幹広
建築面積	1,037 m ²	確認日	2022年12月28日
延床面積	2,632 m ²	確認者	石崎 昂一



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.0 ★★★★★

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B-: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

30%: ★★★★★ 60%: ★★★★★ 80%: ★★★★★ 100%: ★★★★★ 100%超: ★★★★★

0 46 92138 842327622681465052599 (kg-CO₂/年・m²)

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質 Q のスコア = 2.7

Q1 室内環境

Q1のスコア = 2.8

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.0

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 2.2

LR 環境負荷低減性 LR のスコア = 3.2

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.7

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 2.9

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.0

3 設計上の配慮事項		
総合 利用者に配慮し、F☆☆☆☆を使用している。 主要給排水配管は耐用年数が高い材料を使用している。 ライフサイクルコストの低減に努め、地球環境保護に配慮している。		その他 特になし。
Q1 室内環境 [昼光率] ≥ 1.25%。そして、建築物衛生法を満たす換気量の1.4倍となっている。また、自然換気有効開口面積が居室床面積の1/15以上。	Q2 サービス性能 住居・宿泊部の天井高2.6m。そして、給水SUS(C)、排水VP(B)、給湯SUS(C)。また、階高:3.5m。	Q3 室外環境(敷地内) 特になし。
LR1 エネルギー BPI _m =0.74。そして、BEI _m =0.78。	LR2 資源・マテリアル 節水コマなどに加えて、節水型便器も採用している。そして、LGS使用している。また、ODP=0、GWP=3の発泡剤を用いた断熱材を採用。	LR3 敷地外環境 ライフサイクルCO ₂ 排出率が90%。

■ CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■ Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■ 「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生涯の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■ 評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される